

特集

かながわに暮らす留学生

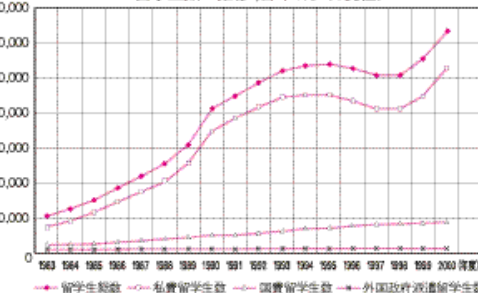
留学生「10万人計画」が提唱されたのが1983年。以後15年を経て、臨海副都心への「国際研究交流大学村」の建設や、新規来日留学生に対する一時金支給など、最近再び留学生をめぐる政策や論議が盛んになっているようです。

当協会では神奈川県学生会館(淵野辺・白根)、神奈川県国際研修センター(合計156人入居可能)という留学生受入施設を運営しています。政府レベルで進む政策とは別に、本号ではここに住む学生を中心に、彼ら・彼女たちが地域の市民とどのような接点を持ち、この社会についてどう感じているのか、率直なお話を聞いてみました。

日本に暮らす留学生

'83年の「10万人計画」以降急増していた留学生数も95年をピークに若干減少傾向が続きました。これにはアジアでの経済危機を始め、受入体制の不備による社会問題化など様々な要因があるとされますが、ここ数年再び増加に転じ、2000年5月現在では全国で64,011人が留学生として日本の教育機関で学んでいます。これは前年比8,256人の増で、史上最多となっています。(別表参照)

留学生数の推移(各年5月1日現在)



このうち、神奈川県内に暮らす留学生の数は同時期に3,202人にのぼり、出身国・地域の数は72にもなります。また、全体の93.9%がアジア地域からの学生です。

もっと統計資料を知りたい人に...

『留学生受入の概況』2000.12.6報道発表
『我が国の留学生制度の概要』平成12年度版
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/kokusai.htm
(文部科学省HP)からダウンロードできます。
県民部国際課『平成12年度県内大学等在籍留学生調査』

また、最近の政策については、
アジア学生文化協会『アジアの友』、
2000年5月号・6月号
<http://kbc.ardour.co.jp/newgenji/abk/index-j.html>
特に小淵政権での進展を特集しています。

文部科学省ホームページより作成。



王さんの「これが私の典型的な一日」の過ごし方

王 雪萍

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士2年
中国・神奈川県国際学生会館淵野辺に入居

7:30~8:30 起床

慌てての起床。片づけとごみ捨てなどでいつも忙しい。

8:30~9:40 通学

大学まで電車とバスの乗り換えが3回で、1時間10分かかる。中国では想像できない通学の遠さ。

9:40~11:30 図書館

本探しと資料のコピー。図書館には学生がいつもたくさんいて、パソコンコーナーはいつも満員。コピー機は何台もあるけど、使うにはなかなか待たなければならない。

11:30~12:30 昼食

研究室の友達と一緒に食事をするのは楽しいことで、食べながら話をします。

12:30~13:00 研究室

皆さんが集まって、授業の準備とおしゃべり...

13:00~15:00 授業

大学院の授業は、研究室で行われますが、いつも少人数です。私は毎回発表があり、先輩たちが授業になると、厳しくなり、いろいろな指摘をしてくれます。他の人の発表を聞いたり、意見も言います。

15:00~18:00 授業

学部研究会で、学部生の発表を聞いたり、アドバイスをします。学生たちがちゃんと準備をして、発表の内容も難しく、よく考えないと、意見を言うのは難しいですね。

18:00~19:00 バイト先へ向かう

電車の中で本を読んだり、一眠りするのは楽しみ。

19:00~21:00 バイト



中国語教室で中国語を教えます。クラスの学生は高校生から定年になった会社員もいます。みなさん、中国のことが好きで、いつも授業中中国と日本のことを中国語で議論をしたり、楽しい時間を過ごします。



神奈川県日中友好協会の中国語教室で。

21:00~22:30 帰宅

夜遅くまで電車は満員。日本人は休むのが遅いね。

22:30~23:00 夕食

温かいラーメンを食べながら、中国の漬け物を食べるのは大好き!

23:00~2:30 勉強

メールのチェックは毎日の仕事。その後、論文と発表の準備をします。夜は勉強するのに一番良い時間。

2:30 就寝

家族を思いながら、夢に入ります。明日をお楽しみ。

王さんから一言: 日本人と友達になるには、まずなにがしかのグループに所属し(サークル等)、そのなかで見つけていかなければ難しいのでは。学生は、遊んだり、議論もしたり、飲み会に行ったり、勉強との両立をうまくやっていますね。

留学生が市民と出会うとき

3,200人を超えるといわれるかながわに暮らす留学生は、どのようにして市民とであうのでしょうか？本紙では1月に、協会が運営する3つの会館の入居留学生40名からお話を伺うことができました。その中で大学の外で市民とどういう時出会うかという問いに対し、14名がアルバイト先、10名が母語を教える講座やボランティア教室、その他には、会館あるいは地域のラウンジを通じてという人もいました。ここでは、それぞれの場でどんな接点を持ち、交流が進んでいるのかをご紹介します。

地域とつながる

神奈川県国際学生会館・白根は周辺の町内会の方々と日常的な交流が盛んです。イベントのある時はもちろん、そうでなくても気軽に近くの方が会館に遊びにきてくれます。

その中でも水鳥のおばあちゃんおじいちゃんには会館誰もが知っているご夫妻。会館開設以来学生を見続けているおばあちゃんと、おばあちゃん大好きな鄭奉花さんにそれぞれ話してもらいました。



水鳥 ケイさん

鄭 奉花さん

水鳥 ケイさん

息子が香港で働いていて、周りの人に大変お世話になったので、会館ができた時から、私にできることをこの学生にしてあげようと思っていました。

よく「おこわ」とか作るんですが、近所で学生に会うと「おばあちゃん、そろそろご飯食べたい」って、飛びついてくるんです。それで作って来ると、たーくさん食べちゃう子がいる。思わず「他の人の分がなくなっちゃうでしょっ」て怒ったり…。ホント孫みたいですね。

ここでみんなで集まって食べたり飲んだりするのが一番嬉しいことです。生き甲斐になっていますよ。

鄭 奉花さん

(横浜国立大学大学院修士課程1年・中国)

会館のイベントで料理を作りながら話しているうちに、仲良くなりました。

日本では年配の女性との付き合い方が一番難しいという先入観をもっていました。今では、おばあちゃんの元気がこの会館の元気だと思うぐらいです。

バイトで疲れて帰ってきても、おばあちゃんの靴をみるとんできます。声を聞くだけで気持ちがいい。日本にも私の事を思ってくれる人がいるという安心感を与えてくれます。

豊口 久史さん

(am/pm横浜白根店店長)

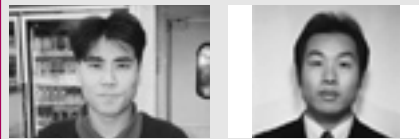
'98年に初めて留学生の方に働いてもらうようになりました。現在では5人の方(全員が白根入居留学生)が働いています。皆さん、留学をするために送り出してくれた家族、周囲のたちと現在いる環境での周囲の人たちへの感謝の気持ちが強いですね。

今までの関わりも大切にしながら、例えばもっと地域に根ざしたボランティア活動へ彼らが参加できるようにうまく道をつけていっていかないと会館ははいていったらいいと思います。そして留学生がこのお店で働いていても全然違和感がないような地域になっていくといいですね。働いていた学生が帰国する頃には私も彼らのふるさとを訪ねてみたいです。

アルバイトをする

学外で一番日常的に市民と関わるのはアルバイトかもしれません。横浜市国際交流協会が2000年に行った「横浜留学生生活調査」でも360人中258人(71.7%)にも上る人が現在アルバイトをしていると回答しています。(横浜市国際交流協会『「横浜留学生生活調査」報告書』、2000年11月)

今回のインタビューでも最も多くの方がアルバイト先が接点になっていると話していました。初めはアルバイト採用を見合わせていましたが、今ではもちつもたれつとの関係になっているコンビニストアでの店長さんと学生のコメントです。



豊口久史さん

翁 英貴さん

翁 英貴さん

(横浜市立大学商学部4年・中国)

日本のコンビニではなかなか外国人を採用しません。というのは、コンビニではお金に直接に関わる仕事なので、外国人の信用度が低いわけです。この理由はお互いに交流していない、理解していないことが主な原因だと思っています。幸いこの地域では、会館のいろいろなイベントを通して、留学生と地元の人たちとの交流の窓を開き、お互いに理解することができるようになりました。御陰で信用度がアップされ、働くこともできるようになったと思います。

働くことができるのは第一歩で、続くのは本人の頑張り次第。一生懸命、相互理解、そして信用を築く、これは私がバイトの最後の思いになっています。

語学ボランティアをする

大学生のアルバイトの定番が家庭教師であったように、留学生もその語学を生かしてアルバイトとしてあるいはボランティアとして活躍する人も少なくありません。またアルバイトを探している学生からよく聞かれる分野でもあります。言葉を媒介として、文化や社会、ひいては人と人が出会いにつながる最も身近な場かもしれません。



斎藤 左端さん、平林 左奥さん、福田 右奥さん、鄭 右端さん

斎藤伸子さん、平林和紀さん、福田和繁さん

知り合いの横浜国大の教授から留学生の奥さんを紹介してもらって始まりました。鄭くんが4代目です。話せるようになりたいという気持は強いですが、ノルマがないのが長続きの秘訣かもしれません。毎週火曜日の夜は楽しみです。

彼を通じて、いろいろな人と知り合うことができる、これが一番いいですね。彼の学園祭へも行きましたし、昨年は韓国に旅行に行きました。

鄭 大星さん

(横浜国立大学大学院修士課程1年・韓国)

大学の後輩から紹介してもらったんです。来日後一年間は研究生として勉強ばかりで、日本人と話す機会もなく、一緒に出かけることもなかったので、よいきっかけとなりました。皆さんとは勉強会とは別に月二回程度色々な国のエスニック料理を食べに行きます。その中で、日本や韓国を始めとした文化等の話をします。私にとっても日本語の勉強にもなりますし、よい友達ができただけです。楽しいから私も長続きしますね。

留学生会ってなに？

今回の40人へのインタビューの中で、困った時相談する相手として、同じ国からの留学生にまず聞く人が圧倒的でした。そうした留学生同士の交流や親睦を深める組織として多くの大学に「留学生会」が存在します。ここでは当協会運営3会館に入居中の3人に、なかでも結束力の強いとよくいわれる「韓国人留学生会の今」を紹介してもらいました。

柳 主 鉉さん（東京工業大学韓国人留学生会会長・淵野辺）
 呂 奉 正さん（東海大学韓国人留学生会前会長・研修センター）
 都 炫 哲さん（横浜市立大学留学生会前会長・白根）



左から、呂さん、柳さん、都さん

どんな活動をしているんですか？

柳 東工大には大体200人ぐらいの韓国人留学生がいますが、大学院生がほとんどというのが特徴です。4月、10月に新入生歓迎会、3月に卒業生追出し会などのイベント。

あとは名簿作りや卒業生への記念品作りなどが大きな活動です。



キャンパスも2つに別れているので、全員で会う事はなかなか難しく、イベントなどは極力減らしてメールを活用しています。

週一回ぐらいはいろいろ連絡を送っています。

呂 会員は大体80人ぐらいです。年2回の新入生の歓迎会や5月には会員親睦の旅行、卒業生の追出し、その間に学園祭やパーティなどを行います。

都 大体同じ様な活動ですが、全体で25名ぐらいの小規模な会です。ですからよく言えば家庭的というか、みんな顔を知っています、5~6人ぐらいでということもよくあります。

留学生会の役割について

呂 学校に直接相談することが難しいこととありますよね。それを同じ留学生同士で解決しようとするときにこうした会で日常的に情報交換したり、親睦を深めていると解決しやすいと思います。

柳 ホームページを立ち上げて会の存在がわ

かると、在学生同士はもちろんですが、実際に日本に来る前の人からのアクセスが多いです。進学に関するメールですよね。あとは交換留学生がこちらの様子を聞いてくるメールも結構ありますね。

都 会員の内、結婚している人と独身の人が半々なんです。ですから、独身の学生が、今日はこのうち、次はここ、という感じで結婚している方の家に遊びに行き食事と一緒に食べたりします。これはホームシックにはかかりにくいですね。



韓国では誰かの家で何かをするのが普通です。でも日本人の家だと、お邪魔されるのは嫌かと思ったりする。韓国でも学生が学生の家で遊んでいてうるさくなることはあります。でもうるさかったら近所から直接文句を言いに来ますが、日本では違う。大家さんのように他の人を通して間接的に言ってくる。

転換期

呂 外向きというよりまず自分たちの大学の中で留学生同士の親睦を深めて困った時の情報交換が出来るようにという方向へ転換しているように思います。「親睦」と「情報交換」がとても重要な意味を持つようになりましたが、それも崩れてきています。学生自体が変化していますね。最近入学している人は韓国で高校を卒業してすぐに留学してきている人が増えています。

都 確かに韓国で大学生活を経験していないとかなり違うかもしれない。韓国では学生会が力があって、いろいろと学生の活動を主導している。学生会費については学生会に任せている。これが高校は全く違う。日本のようなクラブ活動はあません。「受験勉強しろ」です。

あと、最近の若い人と僕などと育ってきている環境もかなり変わりましたね。僕など何時以降は外へ出てはいけなという経験もあるけど、今の人たちは想像つかないんじゃないかなあ。韓国人留学生の中でも縦社会がくずれてきていて、小規模の活動になっていくでしょうね。

柳 学内の専攻科ぐらいの規模で、お互いにどういう人がいるのか知るだけでもずいぶん意味があると思います。存在を知っていれば、必要に応じて相談できたり、場合によってはまとまったりできますからね。留学生会もそうした緩やかなつながりへとなっていくと思います。



呂 だんだん活動に参加する人が減っています。はっきりした目的をもった活動をして、それに参加できる人が参加するようになっていくと思う。

都 引っ張っていく人への反感が強くなってきているように感じます。個人主義的になってきている。だから小規模で自主的にやるという会でないとならない状況ですね。

あなたの周りの留学生に関わるボランティアグループ

インターピープルふちのべ(IF)

相模原市内在住留学生を援助する「さがみはら留学生援助基金」設置や相談・情報提供（住宅・生活一般等）キャンプ開催等。

HP（開始予定）やニュースレターで事業などをお知らせします。また会員を常時募集していますので連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】TEL：042-755-1205（北村）

E-mail: masako99@muf.biglobe.ne.jp

国際交流ボランティア「みなと」グループ

ホームステイ、ホームビジットで日本の家庭を過ごす等。

催物の案内は公共機関紙上に載せているので申し込みください。

【連絡先】TEL&FAX：045-712-3284（川野）

国際交流まどかグループ

観光ガイド、料理・ホームステイ、ホームビ

ジット、茶道等。

毎月第4火曜日10:00~12:00に産業貿易センター9階横浜国際交流ラウンジルームBで例会（12月を除く）をしておりますのでどうぞ。

【連絡先】TEL：045-402-6658（濱本）

中国留学生援護会

中国語教室講師として、大学、大学院在学の中国留学生約20名に対し、中国語受講生会員の受講料を還元し、留学生の経済援助、日中友好活動を行う。

留学生は公募による中国語教師として参加。市民は中国語受講生として会員登録や賛助会員登録によって参加できます。その他、合宿講座、日中パーティ、文化講座中国語歌・漢詩教室も参加できます。

【連絡先】TEL&FAX：045-261-0645（渡辺）

E-mail: engokai@sh.rim.or.jp

HP: http://www.sh.rim.or.jp/engokai/

鶴見国際交流の会

毎週土曜日日本語教室、「留学生と世界の音楽とお茶を楽しむ会」「国際交流ひな祭り」等。

留学生は、会館宛にチラシを送っている。市民は、会員になって参加してもらう。

【連絡先】TEL：045-583-4478

FAX：045-572-7640

E-mail: tanakahiroko@mtf.biglobe.ne.jp

HP: http://www.2s.biglobe.ne.jp/tsurumi/index.htm（田中）

まんまる会

バザー、交流会、ハイキング、料理講習会等。交流が目的。留学生も市民もイベントに参加し、留学生は文化紹介、市民は品物の提供、文化紹介（料理）などそれぞれができることをします。

【連絡先】TEL：045-381-6972（小野）

FAX：045-824-9459（丸谷）

E-mail: hikosue2@ka2.so-net.ne.jp（丸谷）

がんばれ！草の根国際協力**「かながわ民際協力基金」春の助成申請募集**

神奈川県国際交流協会では、4月1日から5月31日までの間、「かながわ民際協力基金」への助成申請を募集します。申請できるのは、次の～のいずれかに該当し、今年10月1日以降、1年の間に開始される事業です。なお、緊急支援事業の助成申請については、随時受け付けていますので、お問い合わせください。

海外の開発途上地域での協力活動

外国籍県民等を対象とした、県内での協力活動

国際協力の担い手を育成する活動

NGOの組織強化や活動の充実を図るための活動

申請を希望される方は、「2001年度助成金申請の手引き」を参照し、受付期間内に申請書とその他の必要書類を提出してください。「申請の手引き」は、当協会の事務所で配布しています。郵送をご希望の場合は、200円分の切手を貼ったA4サイズ(角2号)の返信用封筒をお送りください。また、当協会のホームページ上でも、「申請の手引き」を見ることができます。

申請資格 県内に活動拠点があるか、主に県内で活動するNGO

助成上限 ～ 300万円 50万円

いずれも、助成対象経費から他の公的助成金の額を引いた金額の1/2まで。

審査結果 学識経験者、NGO関係者などで構成される審査委員会で審査を行い、2001年9月30日までに結果をお知らせします。

問合せ先 民際協力課

NGO、ボランティア活動のための助成金獲得のコツ、お話しします！

助成申請ガイドンス

神奈川県国際交流協会では、「かながわ民際協力基金協力基金」への助成申請に関する説明会を開催します。申請書の書き方や審査のポイントについてお話しするほか、他の助成制度に関する情報提供も行います。

また、国際交流協会との「共催」や「後援」など、助成金以外の活動支援の可能性についても、お話ししたいと考えています。

活動の計画がまだ具体化していない場合でも、気軽にご参加ください。

と き 4月22日(日) 午後1時～4時

と ころ 地球市民かながわプラザ 研修室A(1階)

プログラム

第1部 助成金について(13:00～14:45)

第2部 共催、後援について(15:00～16:00)

第1部、第2部のどちらか一方だけでも参加できます。

「かながわ民際協力基金」への募金にご協力ください

「かながわ民際協力基金」は、人と人とのつながりに根ざした、草の根の国際協力活動を支援するため、皆さまのご寄付と神奈川県補助金を原資として、その運用益でNGOの活動に助成を行っています。民際協力基金に、皆さまからのご寄付をお願いいたします。

基金へのご寄付はお近くの郵便局で

郵便振替口座 00250-4-555(財)神奈川県国際交流協会

新しい提携レストランのご紹介

国際交流協会の会員証を提示することにより、割引サービスが受けられます

ガネーシュ【インド料理】

相鉄線「緑園都市」駅から徒歩1分

インド料理と聞いて何を連想しますか。カレーとナンが定番だと思いませんか。ひとくちにインド料理と言っても、南部と北部では食文化や主食となるものも違います。「ガネーシュ」は、日本では数少ない南インド料理が食べられるお店です。旬の食材を豊富に使ったスパイスで酸味ををきかせた料理が自慢です。

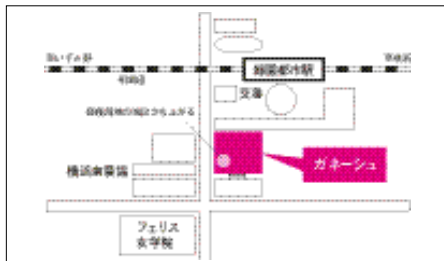
サービス 飲食代金の10%を割引

営業：11:00～22:00

定休日：水曜日(但し、祝祭日の場合は営業)

住所：横浜市泉区緑園4-1-6ジスタビル2F

電話：045-814-0711

**カランボ【スリランカ料理】**

JR「石川町」駅から徒歩7～8分

スリランカの一流ホテルでコックをしていたアセーラさんとアヌーラさんが本格的な味を提供しています。料理の微妙な味を作り出すスパイスはすべて現地直送で、アセーラさんの家族が直接買い付けに行っているそうです。

サービス 飲食代金3000円以上につき10%を割引(ただしサービスランチを除く)

営業：日～木11:00～21:00

金、土及び祝日の前日11:30～22:00

定休日：なし

住所：横浜市中区元町2-88・1元町シエテビル2F

電話：045-664-3777

**ラオス【ラオス料理】**

小田急線「秦野」駅から徒歩約10分

オープンして6年目。このお店には、市内のラオス人仲間や、エスニック好きの日本人が、カラオケやラオス料理を楽しみに集まってきました。オーナーのブンタムさんは、もともと国際交流イベントの会場などでラオス料理を出していたのですが、もっと多くの人たちにラオスの味を知ってもらおうため、この店を始めたそうです。

サービス 飲食代金3,000円以上につき10%を割引

営業：11:00～23:00

定休日：火曜日

住所：秦野市名古木408-2

電話：0463-84-5677



「エスニック・レストラン・マップ2001」ただいま制作中!!

みなさまにご好評いただいている「エスニック・レストラン・マップ」は、神奈川県国際交流協会が提携している県内のエスニック・レストランをご紹介します。

「エスニック・レストラン・マップ2001」には、新たに3店、提携店が加わり、引き続き、これらのお店では、協会の会員証を提示するだけで、10%前後の割引サービスを受けることができます。

会員以外の方でこのマップをご希望の方には、送料のみでお分けいたします。ご希望の方は「レストランマップ希望」と明記の上、当協会宛に80円切手を貼った返信用の定型封筒をお送りください。

春期英会話講座 受講者募集

世界のこと、日本のこと、日常生活のことなどを、より多くの人たちと話せるようになることを目標に、英会話講座を開講します。神奈川県の友好姉妹州の米国メリーランド州から招へいた専任講師が講座を担当します。

楽しい雰囲気の中で英会話を学びませんか。

申込み受付日時

昼クラス希望の方 3月24日(土) 午前10時

夜クラス希望の方 3月24日(土) 午後2時

クラス分けのための簡単なテストを行ないますので、**電話/FAX/Eメールで予約のうえ**、上記日時にお越しください。筆記用具と受講料をご持参ください。申込み受付にはテストの時間を含めて約2時間かかります。

申込み希望者が各クラスの定員を超えた場合は抽選となります。

定員に満たない場合は、随時追加受付を行ないますので3月25日以降にお問合せください。

対象 18歳以上の方

定員 各クラス17名(継続受講者を含む)

費用 受講料 39,900円(消費税込み、教材費は含まず)
協会年会費 3,000円(会員の方は不要)

費用は申込み時に一括でお支払いいただきます。

お支払いいただいた費用は、払い戻しできませんのでご了承ください。

また、教材費は2,000円~2,500円程度の見込みで、講座初日にお支払いいただきます。

会場 神奈川県国際交流協会・研修室
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分・地球市民かながわプラザ1階)

講座内容

Aクラス(上級) 社会時事全般を題材にした話し合いが中心の
応用会話クラス

Bクラス(中級) 英語で日常の簡単な受け答えができる方の日常
実用会話上達クラス

Cクラス(初級/水曜・昼クラス)

英語は少し聞き取れるが、あまり話せない方のクラス

Cクラス(初級/金曜・夜クラス)

英語の聞き取りが苦手、基礎から学習したい方のクラス

講師 Ms.Mary Elizabeth Nitsch(メリーランド州から招へいた専任講師)

期間 4月6日(金)~8月18日(土)(週1回、全18回)

講座日程

	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
昼のクラス 13:30~15:00	Cクラス	Bクラス	Aクラス	Aクラス
夜のクラス 18:20~19:50	Bクラス	Aクラス	Cクラス	

問い合わせ 企画情報課(E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp)

講師紹介: メリー・エリザベス・ニッチ(愛称 メンディ)

ジョージア州サバナ生まれ。大学院で英語を母語としない人への英語教授法を学び、大学では人文学を専攻。昨年の9月に当協会の英会話講師として来日。来日直前の1年間は米国国務省の派遣によりメニカ共和国の文化研究所で英語教授研究員として現地の英語教員向けの指導プログラム作成をしていました。また、それ以前もボルチモアの公立中学校やエクアドルで英語を教えていました。日本の温泉に興味があり、食べることと音楽が大好きな、周りの人を元気づけてくれる明るい先生です。

春の日本語講座 受講者募集

はじめて習う方から上級者まで4つのレベルのクラスがあります。
日本語を勉強したい方をご存知でしたら、ぜひこの講座を紹介してください。

日程 4月21日~2001年9月29日

(毎週土曜日、80分、全18回)

祝日と8月の土曜日は休みです。

時間 9:30~10:50 入門、初級クラス

11:00~12:20 中級、上級クラス

クラス 入門クラス、初級クラス、中級クラス、上級クラスの4クラス。

定員は各クラス10名まで。ただし、5名に満たないクラスは開講しません。

会場 地球市民かながわプラザ1階 研修室

JR根岸線「本郷台」駅より徒歩3分

対象 15歳以上の方

費用 36,750円(消費税込み)

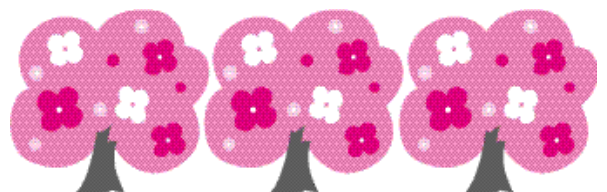
問い合わせ 企画情報課(E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp)

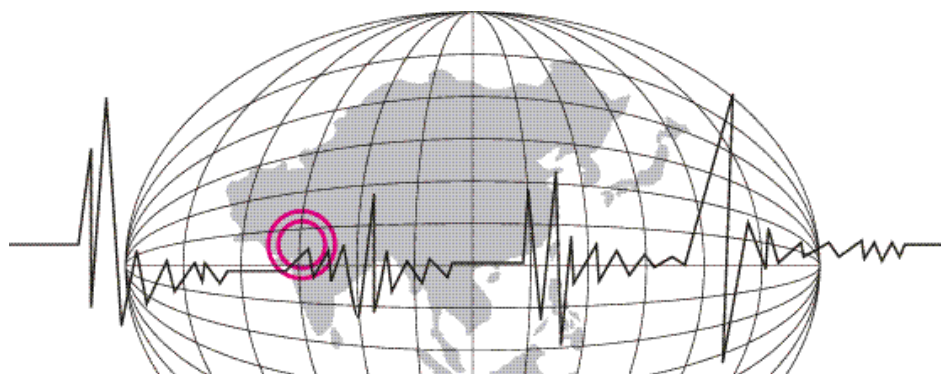
クラス分けのための簡単なテストを行います。

受講を希望する方は、都合の良い日にちと時間を電話で予約して、協会に来てください。ただし、月曜日は休みです。

締め切り 定員になり次第です。

英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語での対応ができます。
お気軽にお電話ください。





インド西部大地震

NGO生活復興活動支援募金

かながわ被災地NGO活動支援委員会は、インドの窮状に対して募金を呼びかけます。みなさまのご理解とご協力をお寄せください。

2001年1月26日午前8時46分頃(現地時間)インド西部グジャラート州で地震(マグニチュード7.9)が発生しました。犠牲者は数万人に登ることが予想されます。

緊急救命活動に対する国際的な協力と援助が必要なのはもちろんですが、地域社会の再建と生活の復興には、多くの時間と長期的な協力が必要とされることも事実です。また、何よりも被災者自身の自立的な活動と、それを支えるNGOの役割が期待されています。

お寄せいただいた募金は、被災地が緊急事態を脱し、復興の主体が地元住民に移行する段階(災害発生後1ヶ月~6ヶ月)に、被災地で効果的なプログラムを実施できるNGOに寄託します。かながわ被災地NGO活動支援委員会は、インドの窮状に対して募金を呼びかけます。みなさまのご理解とご協力をお寄せください。

募金方法: 郵便振替用紙に次の口座番号、加入者名を記入して振り込んでください。

口座番号: 00280-4-49894

加入者名: 神奈川県国際交流協会

通信欄に「インド西部大地震」とお書きください。

募集期限: 2001年4月27日(金)まで

実施計画: 被災地での効果的なプログラムを実施するNGOに寄託します。

かながわ被災地NGO活動支援委員会(事務局):(財)神奈川県国際交流協会)

構成団体: 地球の木、地球市民の会かながわ、グループ「わ」、ナマステの会、マジカルチャイルドクラブ、国際子ども権利センター、草の根援助運動、FHCY、ネパリ・バザーロ、神奈川県、神奈川県国際交流協会 など

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費:個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営するあーすぷらざ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00~20:00
(土曜・日曜日・祝日 9:00~17:00)

映像ライブラリー 9:00~17:00

*月曜日は休館日です。

(ただし、祝日は開館しています。)



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、

(財)神奈川県国際交流協会

(☎045-896-2626)

までどうぞ。

お問合せ

(財)神奈川県国際交流協会

横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 県立地球市民かながわプラザ1F

TEL:045-896-2626 FAX:045-896-2945 <http://www.k-i-a.or.jp>

Hello friends

2001年3月6日発行
第219号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
☎045-896-2626 FAX 045-896-2945
URL: <http://www.k-i-a.or.jp>
E-mail: hello@k-i-a.or.jp

デザイン (株)エイ・シー・ピー
印刷 (株)野毛印刷社

21世紀を迎え、私たちはますます物質的には豊かな時代になってきている。コンピュータは誰もが持ちつつあり、何不自由なく暮らしている。だが、現世の価値のみ追求した結果、自然環境の破壊が進んでしまっている。ましてや人間の本来の力を失いつつある。電磁波、花粉症の弊害は、避けられない。それはまさしく自然と切り離してしまつた結果なのではないだろうか。治安のよかつた日本でも最近犯罪が多発し、いじめ、登校拒否は増加する一方だ。心の豊かさを取り戻し、人間と自然とのバランスを回復していくために自然を見直すべきではないだろうか。昨年、アメリカカンティオン・ホピ族の保有地を旅した。自然とあまり接する時がなく、自然に触れたいと思つた。古来から伝わる伝統、知恵文化にも興味があつた。

バスに長時間乗り、やっと辿り着いた所は、静かな丘の上に立つ空都市のような村だ。観光客の受入に際し写真やビデオの撮影は一切禁止、少し緊張していたが、歓迎してくれた。家の中には、テレビもあり一見近代的な生活をしている。一方、先祖から引き継がれた知恵を日常生活に生かしている。代々から伝わる調度品がなく置いてあり、人間を取り巻くあらゆる物と調和している。生活は豊かではなかったが、自然を身近に取り入れた生活に、心の豊かさを感じた。大地や太陽等に敬意を払い精霊の導きを感じ喜んでいる。

帰りにけに地平線の遙か彼方に虹が架かった。人間が傲慢な態度を改め、自然と共生した生活を選択し続けられる人間本来の力を取り戻せるのではないだろうか。そして自然に対し謙虚さも忘れずいたい。

(管理・国連課 上原 慶子)

*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿、文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は5月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)